広島市立北部医療センター安佐市民病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床研究を実施しております。
本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください

研究課題名	腹臥位脊椎手術における術直後反応性充血の発生率と関連因子の観察研究
研究責任者 （所属科名）	中央手術センター看護師　加東　遼大
本研究の目的・意義	当院は診療科に「整形外科・顕微鏡脊椎脊髄センター」があり、年間約 1200 件の脊椎手術を実施しています。整形外科領域の脊椎手術では腹臥位が選択される事が多く、特殊な固定法のため、前胸部・腸骨部・膝部などに皮膚障害が発生する可能性があります。圧迫による局所虚血後には反応性充血が生じるが、圧迫が持続すると微小循環障害が遷延し、組織障害を引き起こし、皮膚障害の発生につながるとされています。 当院年間整形腹臥位症例による褥瘡発生件数は 2025 年度は約 1200 件中 3 件と非常に少ない傾向にあります。しかし、前胸部や腸骨部に反応性充血が発生することは多く、術後に皮膚障害を発症する可能性が高いと考えられますが、術直後の反応性充血を含む皮膚変化の実態は明らかではありません。また当院では腹臥位の体位物品が 4 種類あり、症例によって使い分けをしていますが、どのような症例・物品で反応性充血が発生しやすいのか調査できていない現状にあります。そこでこれらを調査し、反応性充血や褥瘡が発生するにはどんな関連因子が関係しているのかを明らかにすることで、更なる腹臥位体位管理の質向上に寄与すると考えます。
調査方法・研究期間	（1）研究デザイン：後ろ向き観察研究 （2）研究期間：2026 年倫理委員会承認後～2027 年 11 月 （3）目標症例：500 例以上 （4）調査期間：2026 年 4 月～2027 年 3 月まで

該当資料・データ	★対象となる患者様 上記期間の間に当院で脊椎手術（椎弓形成術）を受けられた患者様です。 ★利用する情報 電子カルテ内に記載のある以下の診療記録、手術室内でのデータ等を利用します。 ①基本属性：年齢、性別、身長、体重、BMI ②手術関連因子：手術時間(分)．腹臥位時間(分)．出血量、術中最低・最高体温、体位物品の種類 術中最低平均血圧、皮膚保護剤使用の有無 ③主要評価項目（術直後に評価） 皮膚状態を以下の４段階で評価する 0：変化無し　1：反応性充血　2：持続発赤　3：水疱形成 評価部位：前胸部、腸骨部、膝部、顔面部
個人情報の取り扱い	利用する情報から患者さまを直接特定できる個人情報は削除致します。また、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
共同研究機関	なし
本研究の資金源（利益相反）	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業などはありません。
お問い合わせ先	北部医療センター広島市立安佐市民病院 研究担当者：中央手術センター　看護師　加東遼大 電話：082-815-5211
備考	